



市内小・中学校の児童・生徒の書き初め展

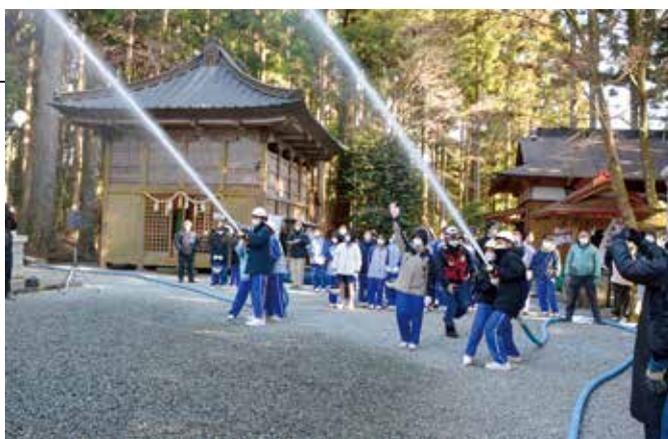
鈴木図書館では、2月5日(日)まで「第54回書き初め展」を開催しました。市内の各小・中学校から138点の力作が出展され、その中から、各賞（市長賞・議長賞・教育長賞）が決まりました。小学1・2年生の元気いっぱいの硬筆から、中学3年生のしなやかで流れる書体の書き初めは、来場者に感動を与えていました。

文化財防火デー

(1月26日)

須山中学校生徒が、文化財防火デーに合わせて須山浅間神社で消火訓練を行いました。生徒たちは消防署員から消火栓の説明を受け、実際に浅間神社で火災が発生したことを想定して訓練が始まりました。初期消火は生徒たちが放水しました。初めて訓練に参加した生徒たちも落ち着いて活動でき、たいへん満足気でした。

広報特派員 杉本 武満



フルヤトモヒロさんが 観光・スポーツ大使に就任

(1月28日)

市内在住のシンガーソングライターのフルヤトモヒロさんに、観光・スポーツ大使の委嘱状を交付しました。フルヤさんは2000年から音楽活動を開始し、地元のイベントやお祭りの司会を務めるなど、当市のPR活動を積極的に行ってきました。

「本当にうれしいです。いつの日か、全国の観光大使を一堂に集めたイベントを、この裾野市で開催したいです。」と声を弾ませながら夢を語りました。



2市1町で共同記者会見

(1月30日)

裾野市・御殿場市・小山町が、脱炭素と地域経済の好循環を目指す「富士山東麓エコガーデンシティ地域循環共生圏」が、静岡県の「ふじのくにフロンティア」の第一号認定を受けて、共同記者会見を開きました。

ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた新たな時代における富士山麓の広域連携が始まります。





**鬼は外、福は内、
コロナも戦争も飛んでいけ**

(2月3日)

佐野八幡宮では節分豆まき大会を境内で行いました。豆まきに先立ち神式が行われました。豆まきには西小学校の2年生、裾野ひかり幼稚園、ひだまり保育園の子どもたちが参加し、宮司さんからお祓いを受け、小学生の代表が豆まきの舞台にあがりました。元気な声で「福は内、鬼は外」と春を呼びました。

広報特派員 杉本 武満

今年の「福」を求めて市民が豆拾い (2月3日)

佐野原神社では節分祭の豆まきを行いました。この日は、来賓の議員や平松区の各区長、氏子などの役員が神社客殿で式典を行った後、13時30分の花火を合図に境内に設置された特設屋台から「豆まき」が3回に分け行われました。保育園児への豆まきは中止となり豆の配布となりましたが、近隣から多くの市民が今年の「福」をもらおうと豆拾いに訪れました。

広報特派員 小林 建次



女性防災リーダー育成講座

(2月5日)

女性が災害時に役立つ知識などを学ぶ講座を開催しました。会場に参加した36人、オンラインで参加した18人は活発に意見を交わし、受講生の熱意を感じました。グループワークでは、避難所運営ゲームをしました。避難所運営では、いかに適切かつ迅速な判断が出来るかが重要であることを学びました。この講座は2月5日、12日の2日間にわたり行われました。

舞台は裾野を飛び出して 世界へ! (2月11日)

40回目となる英語スピーチコンテストを生涯学習センターで開催しました。市内の中学2年生17人が、身振り手振りを交えながら英語でスピーチを行い、にほんごスピーチは近隣の企業で働く3人(出身は台湾、スリランカ、中国)が日本語に興味を持ったきっかけや日本の魅力について熱く語りました。世界に羽ばたく裾野市の未来はすぐそこまで来ています!

広報特派員 中村 隆司

